

またまた若さのエキスをいただいちやった(*^_^*)

「辛抱とは、誰のための、何の為のものなのだろうか？」の記事の中で「ご意見をお聞かせください。」とお願いしたところ、数名のメル友からも感想・ご意見をいただいています。

その中に、ある若者から、「辛抱と言うと何となく聞こえが悪いですが、障害者の方を退席させてまでコンサートを楽しみたいくありません。そんな心で鑑賞しても綺麗な演奏は聴けないと思います。」という一文がありました。

こう云う一文を記す若者の感性って、凄いいませんか？

こうした感性こそが、「心のバリアフリー」に繋がるのでしょうかね。

また、別の若者からは、「辛抱とは我慢するとはまた違うと思います。辛抱とは…説明するのは難しいけど、私は『ちょっとは気にするけど別に良いや～大丈夫！』みたいな感じだと思いました。」との一文。

これも言い当てていると思いませんか？

理屈っぽく考えると難しいテーマにも拘わらず、さらっと本質と思われることに触れる若者たちのこの感性って、凄いですね。若者たちから、またまた若さのエキスをいただいちやった(*^_^*)

更に、ある親御さんからは、「私も阿部さんの問いかけに色々考える機会を頂いているな～と思います。」との一文。

こうして、誰かから思いもかけないヒントをいただいたり、また、色々と共に考えてくださる方々に出合う喜びがあり、厚かましく発信して問いかけるのが止められない(^o^)
問いかけに我が事としてメル友なりに考えてくださることが、何よりも嬉しい。

さて、つい最近のいじめ問題等と重ねてしまうが、意識的に傍観者たろうとする子どもたちが多いか。

傍観せずに一言でも発信する勇気が、いじめの状況を変えたかもしれませんよね。

また、いじめられる子どもからのサインを見逃さないようにとも云われている。

問いかけのサインを受け止めてくださり、傍観を決め込むのではなく自らの検証のチャンスとして活かして感想等を寄越してくださるメル友のように、日頃のこうした意識こそが、今の混濁とした時代にこそ必要なことでないかと、気づかされます。

(2006年12月09日 記)